

第 31 回日本中小企業学会全国大会

統一論題解題

中小企業のイノベーション

—失われた 20 年からの脱却をめざして—

日本中小企業学会会長 高田 亮爾
第 31 回全国大会準備委員長 佐竹 隆幸
第 31 回全国大会プログラム委員長 太田 進一

現在、我が国は 1990 年代以降「失われた 20 年」の渦中にあり、きわめて不安定な環境下で、中小企業の存立維持はいつそう困難な状況になっている。そのため中小企業はさまざまな側面におけるイノベーション（革新）を実現していかなければならない時代を迎えている。

具体的には、環境変化への適応、高付加価値化、需要の多様化への対応、技術革新の進展への対応等を迫られている。中小企業は自らの製品やサービスに関して、特に市場動向に対する洞察・研究開発・設計・製造・販売といった一連のイノベーションが重要となる。既存の市場・製品のライフサイクルから脱却するために、イノベーションの積み重ねが不可欠といえる。

また中小企業が新事業の創出を実現していくためには、企業間連携、NPO との連携、地域金融機関との連携、大学・国や自治体との「産学公」連携の推進など積極的かつ継続的に参画することが求められる。

政策面では、行政の構造改革が叫ばれるなか、限られた国・地方自治体の資源で、地域経済の活性化を進め、中小企業の競争力を強化し、経済社会全体の活力を強化していくための中小企業支援策を実施していかなければならない。中小企業と自治体の協同による活力ある地域を生み出すための政策も必要となる。こうしたことは、地域経済を活性化させるための重要な政策であり、今後経済活性化の担い手として、中小企業の自助努力を促進する政策原理に基づくものである。

これまでの全国大会との関連でいえば、産業構造転換期の戦略的な中小企業経営という視点でかわりのある第 8 回大会（於：明治大学）「中小企業の経営戦略—産業構造調整への対応—」や、起業によるイノベーション創出とも深いかわりのある、第 15 回大会（於：愛知学院大学）「『起業』新時代と中小企業」、中小企業の新たな連携によるイノベーションを模索するという点では、第 25 回大会（於：同志社大学）「中小企業の新たな連携（コラボレーション）」、さらには中小企業のライフサイクルを変化させる再生型創業のイノベーションの取組という側面では、第 26 回大会（於：一橋大学）「中小企業のライフサイクル—誕生、成長、消滅から再生まで—」が関連している。しかし、正面から中小企業のイノベーションについて全国大会で取扱ったことはない。

そこで、本大会では中小企業のイノベーションを技術面、経営面、政策面から総合的に幅広く取り上げる。たとえば経済成長を促す技術の革新的創出、地域経済を活性化させる基盤となる企業の経営革新、イノベーション推進のための行政による中小企業支援施策の整備といった視点などが考えられる。このようにイノベーションの視点をベースに、さまざまな問題点・課題を析出していきたいと考える。多数の会員の積極的な研究報告と討論を期待する次第である。

以上